

第 19 章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 300m、さかい川の谷頭部から約 1,500m 下った右岸に位置し、標高 12～16m、現谷底との比高差は 1.5m を測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は 1987 年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後 1993 年に新駅へ延びる道路をはじめ、2015 年 11 月現在、53 ヶ所で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

II 神明後遺跡第 46 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2012 年 3 月 7 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2012 年 4 月 9 日から 10 日まで、幅約 1.5 m のトレンチ 4 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、土坑を確認した。

他に遺構は確認できなかったため慎重工事の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約 100 cm である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

【土坑】土坑は平面楕円形、確認面 97 × 74 cm、底径 88 × 67 cm、深さ 40 cm を測る。出土遺物から時期は、縄文時代である。

【出土遺物】(第 80 図 1・2)

1 は地文に無節 L r 縄文、2 は地文 R L 縄文を施す。縄文時代中期。



第 79 図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

Ⅲ 神明後遺跡第 47 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2012 年 3 月 7 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2012 年 4 月 24 日、幅約 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、一部で礫や遺構覆土を検出したため、発掘調査の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約 50 cm である。

本調査は 4 月 25 日から 5 月 10 日に行い、縄文時代の集石 3 基とピット 4 基を調査した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

【集石】調査区東端部で検出した。地形は集石検出ヶ所から北西のさかい川に向かって傾斜がはじまる。集石は南北 4.3 × 東西 4.2 m の範囲に広がっており、斜面上の集中ヶ所から斜面の下方へ向かって散在している。調査時には集中ヶ所を 3ヶ所に分け礫を取り上げた。

集石 1 は A-2Grid から D-2Grid にかけて南北 1.4 × 東西 2.9 m の範囲に広がり、特に C-2Grid を中心とした南北 0.8 × 東西 1.2 m の範囲に集中する。

集石 2 は A-3Grid から C-5Grid にかけて南北 2.2 × 東西 2.7 m の範囲に広がり、特に C- 3 Grid を中心とした南北 1.0 × 東西 1.0 m の範囲に集中する。

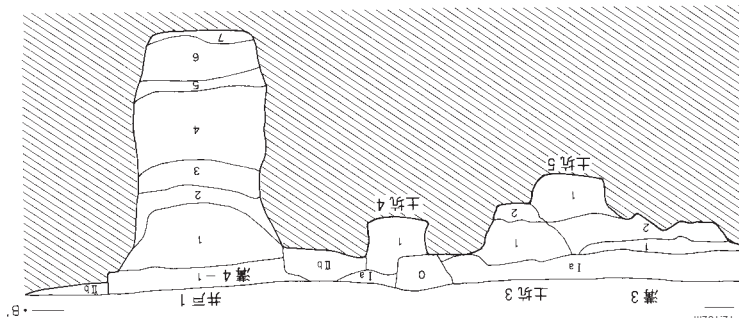
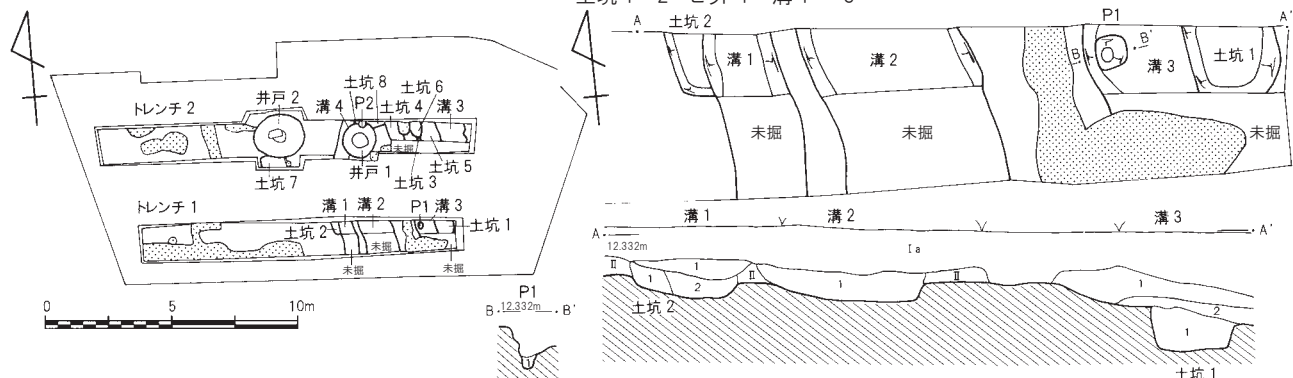
集石 3 は D-3Grid から E-5Grid にかけて南北 2.7 × 東西 1.5 m の範囲に広がる。

集石は土器を伴っており、時期は加曽利 E Ⅲ期。ま

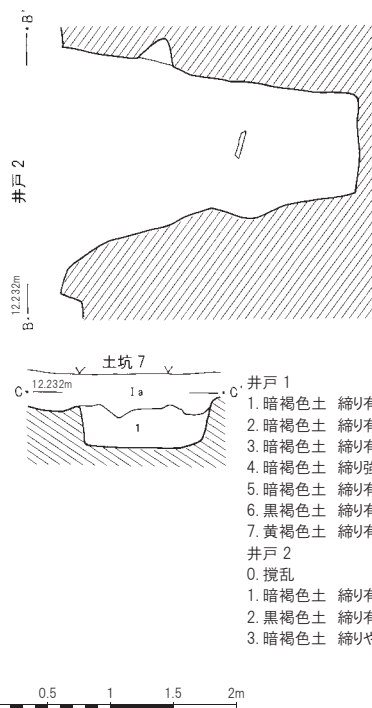
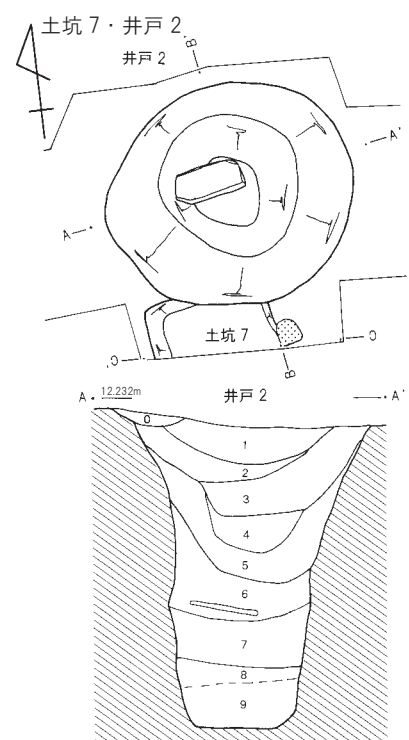
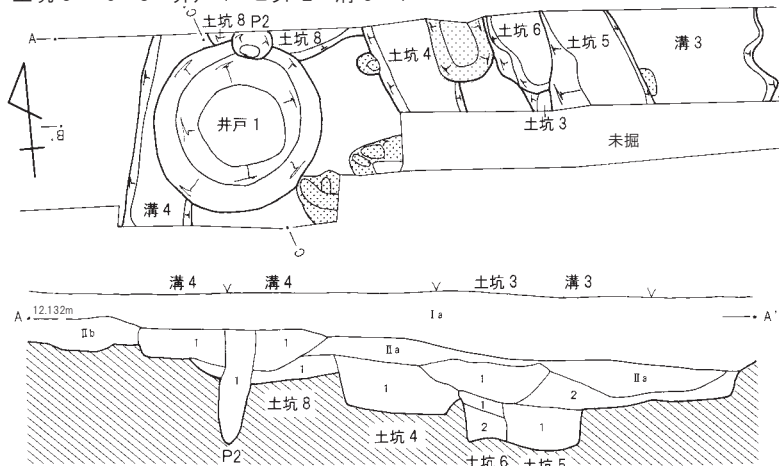
第 62 表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
28	苗間神明後306-1	(2006.5.8~31) 2006.6.29~10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居跡 11 (15~25 号)、集石 23、土坑 5、落とし穴 1、炉穴 3、ピット、溝 4、古代・中世堀跡 1	市3
29	苗間神明後303-21・24	(2006.5.8~11)2006.5.12~19	136	個人住宅	ピット 1、古代・中世堀跡 1	市3
30	苗間神明後303-1	(2006.5.8~19)2006.12.14~19	101	個人住宅	ピット 12	市3
31	苗間神明後284	(2007.8.3~7)	499	個人住宅	土坑 2	市4
32	苗間神明後247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅	近・現代攪乱	市4
33a	苗間240-2	(2008.4.25~5.16)	298	個人住宅	落とし穴 1、中世以降溝 6、井戸 2、土坑 38、ピット 16	市6
33b	苗間240-2	(2008.4.25~5.16)	357	分譲住宅		市6
34	苗間字神明後283-1、284-1の一部	(2008.4.30~5.15) 2008.5.16~28	1,693	個人住宅	縄文中期住居跡 1 (26 号)、落とし穴 1、集石 3、ピット	市5
35	苗間字神明後293-6・20	(2008.8.1)	247	個人住宅	遺構・遺物無し	市6
36	苗間字神明後293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅	ピット 1	市6
37	苗間258-1の一部	(2009.4.13)2009.4.15~30	120	個人住宅	縄文後期住居跡 1	市8
38	苗間字神明後293-1、292-13	(2009.7.6~7)2009.7.8~16	265	個人住宅	中近世溝 1	市8
39	苗間字神明後264-1	(2009.8.5~12)2009.8.24~9.1	378	共同住宅	中〜近世溝 2、ピット 28、落とし穴 1	市7
40	苗間309-1	(2009.11.9~16) 2009.12.18~2010.1.15	156	個人住宅	縄文集石土坑 1、中世地下式坑 2、井戸 1、竪穴状遺構 1、土坑 9	市8
41	苗間字神明後298-1、299-1の一部	(2010.5.25~6.7) 2010.6.15~7.21	486	共同住宅	縄文時代集石土坑 1、中世の掘立柱建物跡、方形竪穴状遺構 16、溝 7、木炭窯 2、ピット 214、本調査 (140m ²)	市9
42	苗間神明前380-3	(2010.6.1~2)	312	宅地造成	遺構・遺物無し (隣接地)	市10
43	苗間292-14	(2010.10.20~22)2010.10.22	107	個人住宅	中世〜近世期ピット 7、本調査	市10
44	苗間神明後367-1、368-1の一部	(2011.7.8)2011.7.11~13	1,536	個人住宅	落とし穴 1、土器・陶器片	市14
45	苗間神明後235-9	(2011.12.5)	200	個人住宅	遺構遺物なし	市14
46	苗間神明後235-6	(2012.4.9~10)	233	個人住宅	縄文土坑 1、土器片	市15
47	苗間神明後227-2	(2012.4.24)2012.4.25~5.10	340	個人住宅	縄文時代集石 3、ピット 4、縄文土器片	市15
48	苗間神明後315-1の一部	(2012.5.7)2012.5.8~14	171	個人住宅	井戸 2、溝 3、土坑 8、ピット、板碑、カワラケ、近世陶磁器、石臼片	市15
49	苗間神明後367-1、368-6	(2013.1.30)	28	個人住宅	遺構遺物なし	市15
50	苗間375	(2013.12.11)	532	薬師堂建設	遺構遺物なし	未報告
51	神明後295-1、297-1・2の一部、 298-1、299-1	(2014.11.5~13)2014.11.20~25	487	集合住宅	縄文時代土坑 2、中近世溝 2、縄文土器	未報告
52	苗間字神明後231-1	(2015.1.28)	379	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
53	苗間字神明後298-1	(2015.1.28)	495	個人住宅	遺構遺物なし	未報告

土坑1・2・ピット1・溝1～3



土坑3～6・8・井戸1・ピット2・溝3・4



- I a. 暗褐色土 締り有、粘性有、2mm 以下ローム粒少し、所々転圧を受けたローム土を含む
 II a. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒少し含む
 II b. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～40mm 以下ロームブロックやや多く含む
 0. 攪乱
 土坑1・P1
 1. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、1cm 以下ロームブロック・粒多く含む
 土坑2
 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、5～10mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒多く含む
 土坑3
 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、5～20mm ロームブロック、5mm 以下ローム粒やや多く含む
 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く含む

- 土坑4
 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、5～20mm ロームブロック・5mm 以下ローム粒やや多く含む
 土坑5
 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5～40mm ロームブロックやや多く含む
 土坑6
 1. 溝3の2層に似る
 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、5～10mm ロームブロック少し含む
 土坑7
 1. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、1～10cm ロームブロック多く含む
 土坑8
 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1～4cm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く含む、土質はII b に似る
 溝1
 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm 以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含む
 溝2
 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1～2cm ロームブロック・5mm 以下ローム粒少し含む
 溝3
 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～30mm 以下ロームブロック多く含む、若干転圧受けている
 溝4
 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5～10mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒少し含む
 P2
 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5～10mm ロームブロック・粒少し含む

- 井戸1
 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、5～50mm ロームブロックやや多く含む
 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、暗褐色土ベースにローム粒主体
 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、5～30mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒やや多く含む
 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒少し～やや多く含む
 5. 暗褐色土 締り有、粘性有、赤褐色酸化土をシミ状に、3mm 以下ローム粒少し含む
 6. 黒褐色土 締り有、粘性やや強、暗褐色土をやや多く、赤褐色酸化土をシミ状に含む
 7. 黄褐色土 締り有、粘性やや弱、ローム粒主体
 井戸2
 0. 攪乱
 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、5～30mm ロームブロック多く含む
 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、5～20mm ロームブロックやや多く含む
 3. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、5～30mm ロームブロックやや多く含む

第84図 神明後遺跡第48地点遺構配置図(1/300)、土坑・井戸・ピット・溝(1/60)

IV 神明後遺跡第 48 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2012 年 4 月 16 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2012 年 5 月 7 日、幅約 1.5 m のトレンチ 2 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、一部で遺構覆土を検出したため、発掘調査の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約 20 ～ 30 cm である。

本調査は 5 月 8 日から 14 日に行い、土坑 8 基、中世の井戸 2 基、溝 4 条を調査した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

【土坑】8 基検出した。土坑 7 を除き東側に集中する。土坑 8 →土坑 4 →土坑 6・土坑 3 →土坑 5 →溝 3・溝 4 の順に新しくなる。詳細については、第 65 表を参照。

【井戸】2 基検出した。

井戸 1 は調査区中央やや東寄りに位置する。溝 4 より古い。平面円形、上部の崩れが少なく、断面筒状である。底はローム土で、吸い込み(排水用)の土坑の可能性もある。規模は第 65 表参照。

井戸 2 は調査区中央に位置する。平面円形、断面筒

状で上部は漏斗状に広がる。底から 0.9 m の位置に裏面を上にした状態で板碑が出土した。底は砂礫層に達する。規模は第 65 表参照。

【ピット】ピット 2 は溝 4 より新しく、遺構群の中では最も新しい。詳細は第 65 表参照。

【溝】4 条検出した。いずれも南北方向で調査区東側に分布する。溝 1 は土坑 2 より、溝 3 は土坑群より、溝 4 は井戸 1 より新しい。詳細は第 66 表参照。

【出土遺物】出土遺物については、第 67 表参照。

第 65 表 神明後遺跡第 48 地点土坑・井戸・ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	不明	72×(52)	52×(49)	23.2	
土坑2	不明	(48)×32	(43)×24	15.4	
土坑3	不明	(20)×(15)	(15)×(11)	23.9	
土坑4	不明	(74)×54	(74)×41	29.2	
土坑5	不明	80×(80)	48×(80)	38.8	
土坑6	不明	(65)×(41)	(57)×(39)	42.1	
土坑7	不明	(100)×(45)	86×(40)	38.6	
土坑8	不明	(72)×(24)	(63)×(18)	9.7	
井戸1	円形	137×133	65×64	198.9	
井戸2	円形	200×178	51×51	251.7	
P1	方形	26×24	11×9	44.4	
P2	不明	32×(18)	14×7	47.7	

第 66 表 神明後遺跡第 48 地点溝一覧表 (単位 cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝1	皿状	53～59	33～39	14.0	
溝2	皿状	129～132	108～110	18.3	
溝3	皿状	78～122	61～114	18.2	
溝4	ㄚ字	51～55	41～42	24.4	

第 67 表 神明後遺跡第 48 地点出土遺物観察表 (単位 cm)

掲載No.	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	井戸1	陶器/皿	—	(7.0)	—	轆轤成形/長石釉	瀬戸・美濃	1590～1660年代
2	井戸1	土器/焙烙	—	—	0.95	轆轤成形	—	近世
3	井戸1	石製品/石臼	(33.0)	—	6.5	石質:砂岩/上臼/重量736.58g	—	近世
4	井戸2	土器/カワラケ	—	—	—	轆轤成形/内面に沈線で渦文、底部糸切痕/胎土:色/橙	在地	16c
5	井戸2	石製品/板碑	(57.7)	25.0	3.0	石質:緑泥片岩/重量:9.0kg/掘り方:薬研彫/装飾:杵線、主尊種子「キリク(阿弥陀如来)月輪、蓮座」、偈:光明真言、紀年銘:康安元年十一月十日、残存:山形の一部と基部欠	—	1361
6	遺構外	縄文土器	—	—	1.0	地文RL縄文に沈線文を施す	在地	縄文時代
7	遺構外	陶器/皿	—	—	—	轆轤成形/長石釉/鉄絵	瀬戸・美濃	1600～1660年代

V 神明後遺跡第 49 地点

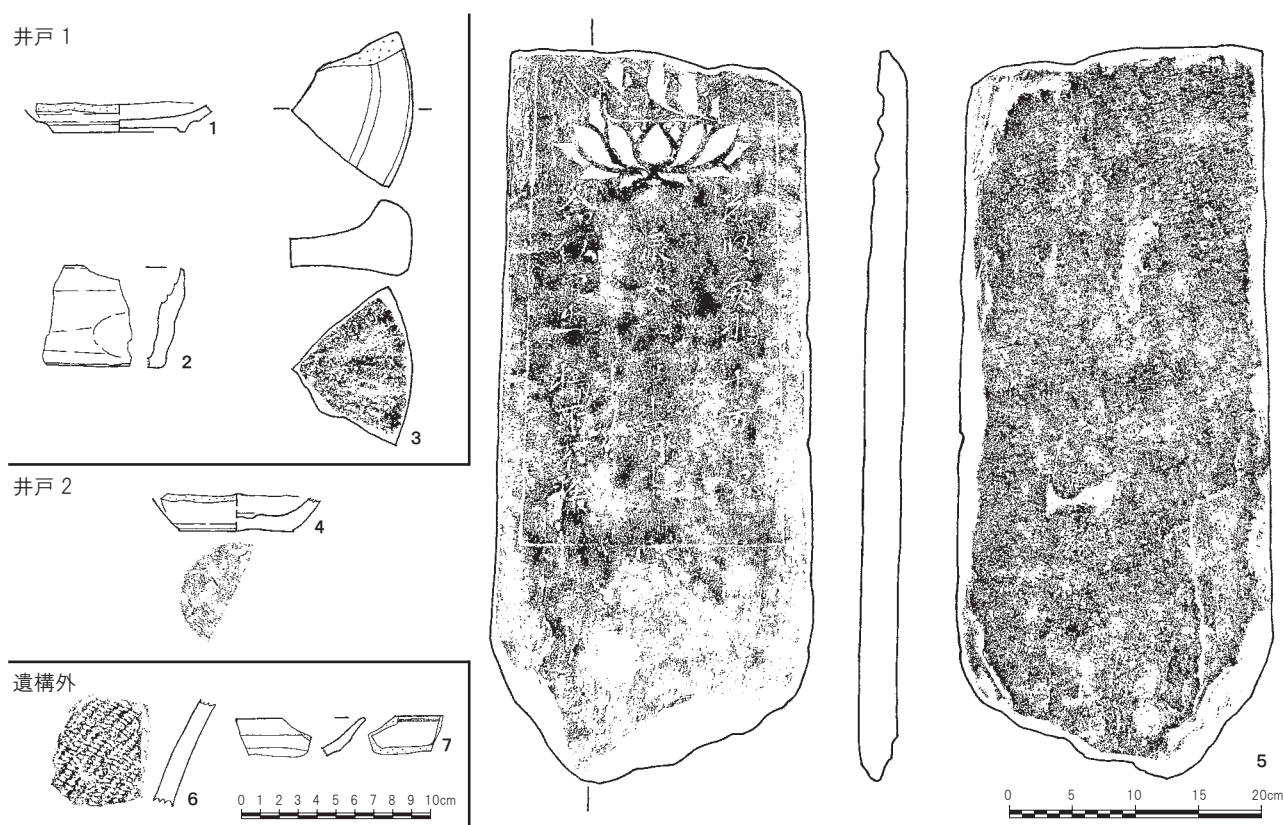
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 1 月 18 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

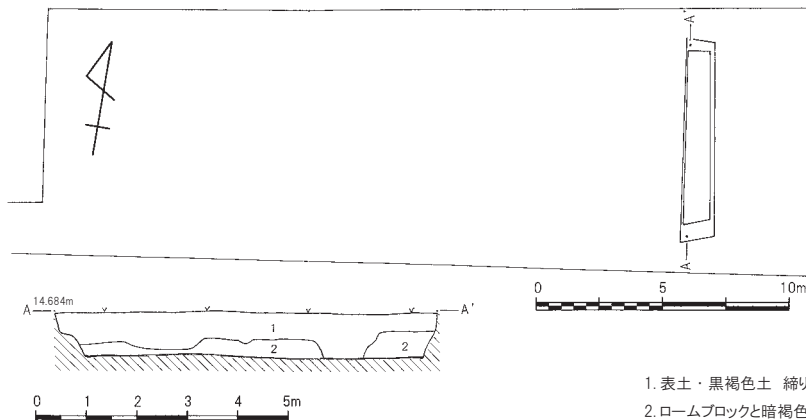
試掘調査は 2013 年 1 月 30 日、幅約 1.5 m のトレンチ 1 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、遺構・遺物が確認できなかったので、慎重工事の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約 80 cm である。写真撮

影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

確認面までの深さは約 80 cm である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

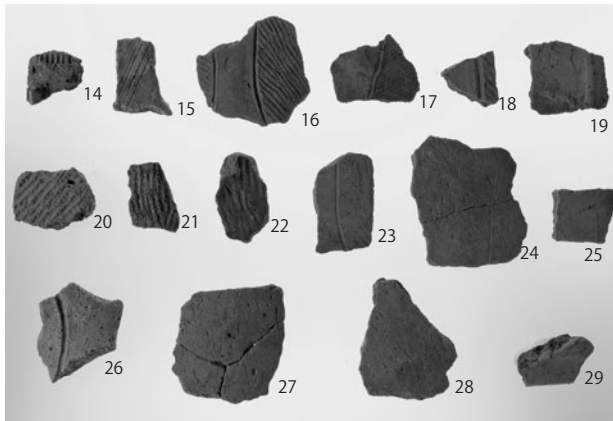


49 地点

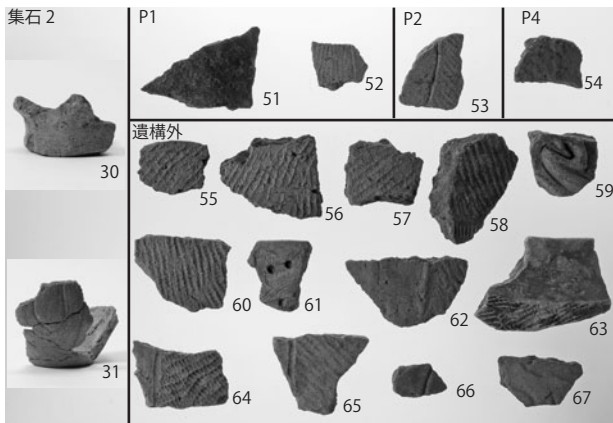


1. 表土・黒褐色土 締り有、一部硬く締る
2. ロームブロックと暗褐色土の混合土 締りやや有、天地返し

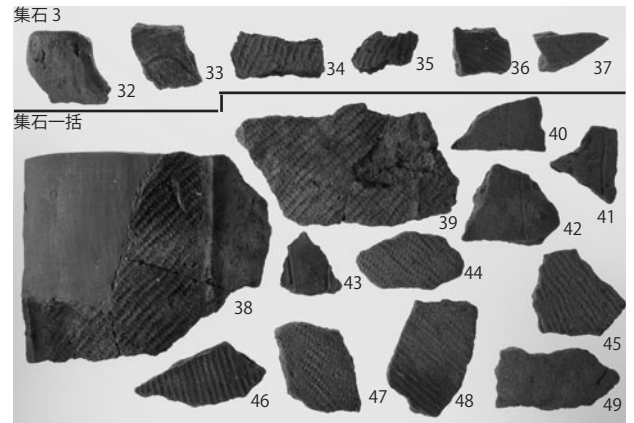
第 85 図 神明後遺跡第 48 地点出土遺物 (1/4・1/6)、第 49 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)



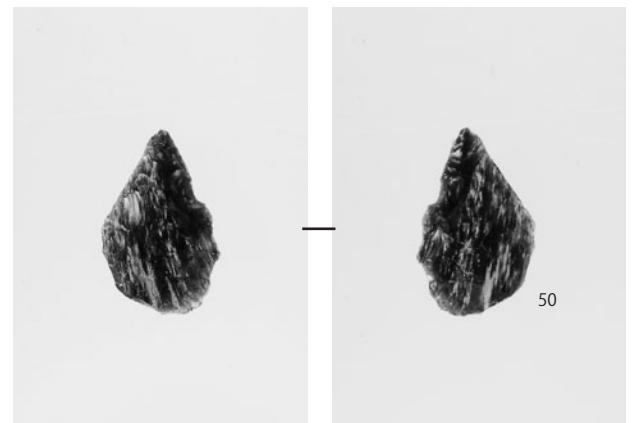
神明後遺跡第 47 地点集石 2 出土遺物



神明後遺跡第 47 地点出土遺物



神明後遺跡第 47 地点集石 3・集石一括出土遺物



神明後遺跡第 47 地点集石一括出土遺物 No.50



神明後遺跡第 48 地点トレンチ



神明後遺跡第 48 地点トレンチ 2 溝・土坑土層



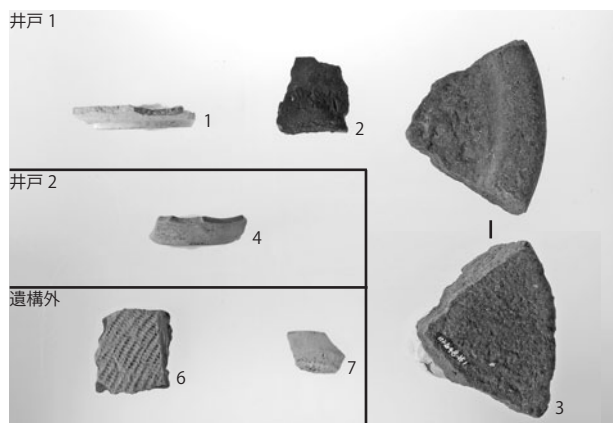
神明後遺跡第 48 地点井戸 1・2



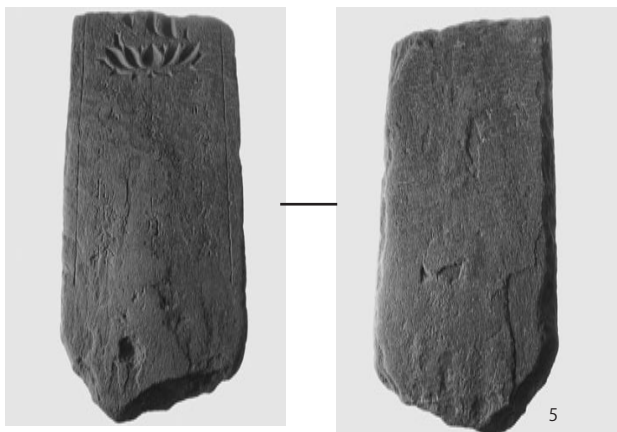
神明後遺跡第 48 地点井戸 2 遺物出土状況



神明後遺跡第 48 地点調査風景



神明後遺跡第 48 地点出土遺物



神明後遺跡第 48 地点井戸 2 出土遺物 No.5



神明後遺跡第 49 地点調査風景